

実践記録集

第Ⅰ章 令和3・4年度校内研究概要

「新しい生活様式における地域交流のあり方に関する研究
～人との関わり方の整理、授業化、検証をとおして～」

第Ⅱ章 研究授業実践一覧

1 令和3年度 研究事例

- (1) 小学部2年D組と高等部流通サービス班とのリモート交流授業
- (2) 中学部全生徒と高等部3学年とのリモート交流授業

2 令和4年度 研究事例

- (1) 小学部 同年代の友達や先輩と共に学び合うよりよい交流授業
- (2) 中学部 作業学習における地域とのよりよい交流授業
- (3) 高等部 作業学習における地域とのよりよい交流授業

3 参考資料

- (1) 研究各種シート
- (2) 補足資料

第 I 章

令和 3 ・ 4 年度校内研究概要

【令和3・4年度研究テーマ】

新しい生活様式における地域交流のあり方に関する研究 ～人との関わり方の整理、授業化、検証を通して～

【研究テーマ設定理由】

- ・令和2年新型コロナウイルス感染症の流行による、学習活動、校舎間や学部間、地域との交流制限
- ・直接交流以外の手段がない中、学部間、地域との協働的な学びが難しい状況



- 協働的な学びにおける学校課題の解決
- 令和答申に掲げられた協働的な学びの実現やICTを活用した授業づくり
- 児童生徒の学校で、地域で、社会で他者と関わり学び合い、共に生きる力を育成

【研究の目的】

あらゆる生活場面でICT活用が日常的になっている日本社会の中で、ICTを活用した新しい関わり方の授業を構築し、学校や地域社会等のいろいろな場面で活用しながら共生社会の実現を目指す。

【研究の目標】

- (1) 各学部や校舎間での新しい関わり方を授業化する。
- (2) 各学部と地域における新しい関わり方を明らかにする。
- (3) 新しい関わり方の授業の有効性を検証する。



【研究計画・方法】

令和3年度（全校研究）

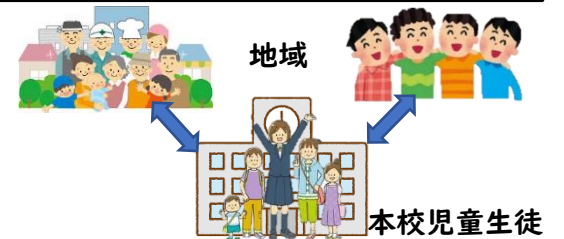
- (1) 学部間交流や地域における本校の現状や研究テーマ設定理由を確認
- (2) 小学部と高等部、中学部と高等部間で、リモート交流（授業）での研究授業
- (3) 児童生徒の目標達成状況、教師の手立てを検証、考察し、成果や課題、改善策を見出す。
- (4) 希望制でリモート交流授業を実施
- (5) リモート交流（授業）の良さ、難しさを整理
- (6) 重複学級の児童生徒にとっての交流について、感覚をベースにした目標設定の一例を共有

令和4年度（学部研究）

- (1) 昨年度の成果と課題を踏まえて、研究の全体計画や学部計画を確認
- (2) 全学部で、児童生徒の育てたい力を育てるため、直接交流（授業）、リモート交流（授業）を組み合わせた研究授業
- (3) 児童生徒の変容、教師の手立ての評価、交流相手の変容を検証、考察し、成果や課題、改善策を共有、今後の授業に生かす。
- (4) 直接交流（授業）やリモート交流（授業）の良さ、交流（授業）の難しさ、次年度の方角性についてまとめ、共有

【研究各種シート】

- ・交流（授業）打ち合わせシート
- ・児童生徒変容シート
- ・交流（授業）に特化した学習指導案
- ・交流（授業）振り返りシート
- ・交流（授業）相手の感想シート
- ※「参考資料 研究各種シート」参照



令和3年度 研究授業

小学部2年D組
生活単元学習「机拭きマスターに変身！」
（高等部流通サービス班とのリモート交流授業）



中学部全生徒
生活単元学習「高等部の先輩の報告を聞こう」
（高等部3学年とのリモート交流授業）



※詳細は「授業実践一覧」参照

【成果】

- ・児童生徒が画面を意識し、程よい緊張感で、言葉遣いや態度に気を付ける等、リモート交流ならではの良さを感じ、授業目標も達成された。
- ・交流打ち合わせシートの活用で、校舎が離れていても、リモートで教師同士の情報共有ができた。
- ・前年度よりも学部間交流が増え、Zoomを操作できる教員も増えた。

【改善策】

- ・効果的な事前・事後学習が必要
- ・集団で学習する場合の配慮点（児童生徒の学習参加の在り方や目標設定）に検討が必要
- ・通信の不具合を想定し、代案の授業を考える必要性あり

新しい交流として授業化できた。
課題の改善策を次年度へ

令和4年度 研究授業

【小学部】

同年代の友達や先輩と共に学び合うよりよい交流授業

人との関わりや教科における目標達成をねらい、6つのグループにおいて、異学年交流、学部間交流、交流及び共同学習で研究授業を行った。※詳細は「授業実践一覧」参照

直接交流の良さ
・コミュニケーションが生まれやすい。
・実感・五感を伴った活動ができる。
・臨機応変な支援や手立て

リモート交流の良さ
・離れた相手との交流、学びの保障
・画面の注視、集中
・落ち着いた学習環境
・映像、仕掛けによる学習意欲向上

組み合わせた良さ

- ・交流機会増
- ・効果的な事前・事後学習の設定
- ・相手に伝わる話し方の学習・実践機会増

改善策

- ・交流相手とのグループやペア設定の工夫
- ・「やってみたい」「関わる喜び」を獲得できる活動設定
- ・リモート交流の場合は、大きい集団同士ではなく、小グループ⇄小グループが良い。

【中学部】

作業学習における地域とのよりよい交流授業

人との関わりや作業学習における知識・技能アップをねらい、4つの作業班において、外部講師を招いての研究授業を行った。※詳細は「授業実践一覧」参照

直接授業の良さ
・五感で人柄を感じながら感情を伝え合える。
・具体物を交えたやりとりの充実
・生徒の進捗状況に合わせた指導

リモート授業の良さ
・離れている相手との学習機会
・注目してほしい部分をズームアップでき、興味関心を引き出すのに効果的

組み合わせた良さ

- ・リモート授業では見る・聞く・知ることを、直接授業では実践することを中心とした発展的な授業展開が可能
- ・外部講師や関係機関との継続的つながり

改善策

- ・学習のねらいに応じた、直接授業とリモート授業の使い分け
- ・リモートで講話を聞くことが難しい生徒への手立ての工夫

【高等部】

作業学習における地域とのよりよい交流授業

人との関わりや作業学習における知識・技能アップ、地域貢献をねらい、5つの作業班において、外部講師を招いての研究授業を行った。※詳細は「授業実践一覧」参照

直接授業の良さ
・実際に体験したり、技術を見て習得したりすることができる。
・プロから直接教わることが良い刺激に

リモート授業の良さ
・離れている相手との学習機会
・安心して活動できる学習環境

組み合わせた良さ

- ・直接授業を受ける前に、事前学習としてリモート授業を取り入れると効果的
- ・外部講師や関係機関との学習機会の確保

改善策

- ・学習のねらいに応じた、直接授業とリモート授業の使い分け
- ・専門的な技術を習得するには、直接授業が望ましい。



【成果】

- ・直接交流（授業）とリモート交流（授業）双方の良さを考え、児童生徒の目標達成に向けた交流や外部講師の方を活用した授業を展開することができた。
- ・児童生徒の変容、教師の評価、地域の評価（感想）から、交流（出前）授業の成果・課題が分かり、次年度の方角性や改善策を見出すことができた。

【改善策】

- ・地域（交流相手や外部講師）とのWinWinの関係づくりが必要である。
- ・学習のねらいに応じた直接交流（授業）とリモート交流（授業）の組み合わせや使い分けが必要である。
- ・2回の交流授業（出前授業）から児童生徒や相手の変容を見取るのが難しかったため、評価の根拠や妥当性を考える必要がある。

【まとめ】 2年の校内研究を通して、直接・リモート交流の手順やノウハウが定着し、外部人材の活用も含めて、学年間・学部間・地域との交流が日常的に行われるようになった。また、授業改善を通して、指導グループ内の児童生徒理解が深まった。今後もPDCAサイクルによる継続した改善を図っていく。

共に生活する、他者と共に取り組む、関わって学ぶ力は、社会に出たときに必要な資質・能力であり、他者との関わりや学びの中で得た気づきや知識は、次の自分の目標設定や、自己の考えの広がり、課題に対して解決策を考えたり、自分で工夫したりする姿といった主体的・対話的で深い学びにつながっていく。また、直接交流や直接授業での体験や経験はとても大切であり、リモート交流やリモート授業を活用すると様々な学習の可能性が広がっていく。これからも、社会の中で生活し、参加し、貢献する力を備えた児童生徒を育てるため、協働的な学び、地域との関わり学び合いを大切に、直接交流やリモート交流授業の良さを生かしたよりよい交流のあり方を考え、実践していくことが必要である。

第Ⅱ章 研究授業実践一覧

1 令和3年度 研究事例

- (1) 小学部2年D組・高等部流通サービス班とのリモート交流授業
- (2) 中学部・高等部とのリモート交流授業

1 令和3年度 研究事例

(1) 小学部2年D組と高等部流通サービス班とのリモート交流授業

「清掃活動を通じた学部間交流」(小学部2年D組と高等部との交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
生活単元学習「机拭きマスターに変身！」		
2 対象児童		
小2年D組		
3 育てたい力		
① 基本的な生活習慣を習得する。 ② 係活動や教師の手伝い等に進んで取り組む。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流】 ・教室内の机、椅子、課題ボックスを一人で運ぶ。 ・手順に沿って床用ワイパーで掃除をする。 ・机の汚れがなくなるまで拭く。		
5 授業の概要		
【リモート交流】 ・パワーポイントを見ながら掃除をすることの大切さを知る。 ・リモートを通して、高等部生徒の自己紹介を聞き、自分たちも自己紹介をする。 ・リモートを通して、高等部生徒から布巾のたたみ方、机の拭き方を習う。 ・自分たちの机を拭いて練習する。 ・リモートを通して、高等部生徒に机の拭き方を見せてアドバイスをもらう。		
6 手立ての工夫		
・掃除の必要性や大切さをイラストや画像、動画を用いて児童がイメージしやすいように示す。 ・高等部生徒の丁寧な作業の様子が分かるように、指導内容によっては生徒の手元を映すようにする。 ・練習用に印などを付けたものを使用して練習する。 ・上手くできるようになったところや、なかなか意識できていない部分について伝えることで、高等部生徒がアドバイスしやすいようにする。 ・教わったことをイラストカード等で提示したり、授業内容を想起できるような言葉掛けをしたりする。		
7 児童の変容		
研究授業前の 実態	・脱いだ衣服を自分なりにたたむことができる。 ・机を拭く時には、布巾を往復させながら部分的に拭くことができる。	
	成果	課題
研究授業後	① 授業や高等部の先輩についての感想を聞くと、楽しかったことや、目標達成のバッジをもらってうれしかったと話していた。 ② 給食後、布巾を真ん中でたたんだり、布巾を少しずつずらしながら机を拭こうとしたりする様子が見られるようになった。	

(2) 中学部全生徒と高等部3学年とのリモート交流授業

「進路学習を通じた学部間交流」(中学部全生徒と高等部3学年との交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
生活単元学習「高等部の先輩の報告を聞こう(高等部現場実習報告会)」		
2 対象生徒		
中学部2年2組		
3 育てたい力		
① 先輩の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝える力。 ② 職業や進路に関わる話を聞き、自分にあった職業や進路を考える力。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流】 ・高等部の先輩の発表に関心をもちたり、関心をもちたことを書き留めたりする。 ・現場実習先の施設や企業に興味や関心をもちたり、高等部の先輩に現場実習に関する質問をしたりする。		
5 授業の概要		
【リモート交流】 ・先輩の報告を聞く。 ・進路指導主事のアドバイスを聞く。 ・聞き取ったことをメモする。 ・先輩に質問し、回答を聞く。		
6 手立ての工夫		
・発表中はZoomをミュートにし、中学部側だけに聞こえるように必要に応じて補足説明したり、重要な点を復唱したりする。 ・実習先や仕事内容を記入するワークシートを用意する。 ・事前学習で質問内容を考え、前もってワークシートに記入する。ワークシートを見ながら質問できるように事前に練習する場面を設定する。 ・その場で先輩の回答を聞き取れない場合は、事後学習で動画を見て確認できるようにする。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・3名は高等部に進学したいという意思をもっている。1名がまだわからないと返答した。 ・大人になったら働いて給料をもらいたいと考えているが、何歳になったら働くのか等具体的なイメージはできていない。また、なりたい職業を具体的に言うものの実態にそぐわなかったり、考えが茫洋としたりしている。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 実際の高等部生徒の姿を知ること、高等部の具体的なイメージをもち、「高等部に行きたい」という気持ちを強めた。 ② 同じデイサービスを利用している高等部の先輩の実習先や仕事内容に興味をもち、自分の進路希望として挙げた。	② 生徒同士がやりとりする場面が少なかった。
現在の様子	・「(中学部卒業後は)高等部に行きたい」と4名全員がはっきりと言うようになった。 ・やりたい仕事の選択肢が増え、調理以外で清掃の仕事に関心をもちた生徒がいた。	

2 令和4年度 研究事例

- (1) 小学部 同年代の友達や先輩と共に学び合うよりよい交流授業
- (2) 中学部 作業学習における地域とのよりよい交流授業
- (3) 高等部 作業学習における地域とのよりよい交流授業

2 令和4年度 研究事例

(1) 小学部 同年代の友達や先輩と共に学び合うよりよい交流授業

「リサイクル活動を通じた異学年交流」(小学部低学年A-①グループと小学部6年1・2組の交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
生活単元学習「チャレンジ!リサイクル」		
2 対象児童		
小学部2年G組		
3 育てたい力		
① やりたい活動を決め、やり方を覚えて作業する。		
② 先輩の話を聞いたり、問いかけに答えたりする。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流時】		
・友達や先輩の発表を聞き、発表者の名前や選んだリサイクル活動を覚えたり、教師の促しに応じて拍手をしたりする。		
・発表の仕方が分かり、練習したことを話型に沿って発表する。		
【直接交流時】		
・先輩の手本をまねて、礼の動作や入退室時の挨拶をする。		
・先輩の話を聞いてから、指示どおりにリサイクル活動に取り組む。		
5 授業の概要		
・事前学習:6年生のリサイクル活動の様子を動画で見る。／やりたい活動を選択する。		
・リモート交流:リサイクル活動の様子を動画で見る。		
・直接交流:6年生からリサイクル活動の様子について直接教わる。		
・事後学習:リサイクル活動の継続		
6 手立ての工夫		
・ICTを活用した「メンバー紹介」や「手本動画でリサイクル活動を知る」活動の設定		
・穴埋め式の発表用紙の提示		
・先輩からイラストカードを用いて3段階評価をしてもらう場面の設定		
・「教わる⇔教える」「練習する⇔評価する」という関わり合いを生む活動の設定		
・画面を見ながら間接的に学習するとき、実際に活動するときの効果的な組み合わせ		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	・身近な友達や教師と簡単な会話をすることが好きである。 ・入退室時の挨拶「失礼します」「ただいま」等を大きな声で話す練習をしている。声が小さいことが多い。 ・初めての活動でも、説明を聞いたり手本を見たりすることで、見通しをもって活動することができる。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① テレビ画面を注視し、友達の発表や先輩の評価を見たり聞いたりすることができた。 ② 発表シートを見ながら頑張ったことを話すことができた。	② 発表時の声の大きさは、側にいる教師に聞こえる程度で、友達には聞こえにくかった。→どの程度の声量だと相手に伝わるのか、動画で確認したり相手に教えてもらったりする学習を設定する。
2回目の研究授業後	① 教えてくれる先輩の話を聞いたり、先輩が指さした部分を見たりしながら、シュレッター作業の一連の流れに取り組むことができた。 ② 友達にも聞こえる声で「失礼します」と話すことができた。	(手立ての課題として) ② 体験時、6年生から挨拶時の声の大きさについてアドバイスをもらえるよう言葉掛けをすれば、より挨拶の声量に気を付けることができたのではないかな。
現在の様子	・リサイクルのカードを取り出し、体験時にもらったシールを担当に見せることがあった。またシュレッターに行きたいか尋ねると「うん」と返事をした。 ・毎週〇曜日と決めて取り組みたい。入退室時の挨拶練習や、先輩と会う機会をつくる。	

「清掃活動を通じた交流授業」(小学部A-②グループと小学部6年1・2組の交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
生活単元学習「ぼくたちおそうじ隊～もっとうまくなるために」		
2 対象児童		
小学部3年H組		
3 育てたい力		
① 清掃に関する技術面のスキルアップ。 ② 相手の話をよく聞いたり、分かりやすく伝えたりする力。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流時】 ・先輩の映っている画面を見て話を聞き、掃除用具の正しい持ち方や使い方を覚える。 ・自分の活動内容を発表したり、教えてほしいことを大きな声で話したりする。		
【事後学習】 ・清掃用具を正しく持ち、体の向きを変えながら清掃することができる。 ・教えてもらったことを覚え、繰り返し練習していることや、がんばっていることを伝える。		
5 授業の概要		
・リモート交流 : おそうじ隊の活動を6年生に見てもらい、もっとうまくなりたい部分を教えてもらう。 ・学級での振り返り : 教えてもらった部分を繰り返し取り組む。 ・事後学習(ビデオレターを送る) : 上手になった部分を先輩に見てもらい、ありがとうの気持ちを伝える。		
6 手立ての工夫		
・自己紹介や、返事・応答しながら相手と活動する場面の設定 ・画面に映っているものと同じ写真カードを提示 ・話した内容を記したカードの相手への提示		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	① 教師や友達と言葉でやりとりをしたり、端的な言葉での指示を聞いて活動に取り組んだりすることができる。 ② 身体の動きにぎこちなさはあるが、清掃活動に一人で取り組むことができる。空間認知面が弱く、姿勢を保ったり、まっすぐ歩いたりすることは苦手ではあるが、言葉掛けを受けたり、目印を見たりすることで床用ワイパーを掛けたり、机や椅子を並べたりすることができる。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 床用ワイパーの正しい持ち方を覚えることができた。また、繰り返し取り組むことで定着した。 ② 繰り返し練習したことは、大きな声で話すことができた。	① 床用ワイパー掛けの動線が難しかった。 →床用ワイパー掛けの順路については、教材や手立ての工夫をより一層し、繰り返し取り組む必要がある。 ② 話す内容の精選と、児童が話しやすい言葉の選定に改善が必要である。
事後学習の授業後	① 正しい持ち方での清掃により、自信をもって活動できるようになった。 ② 録画したものを自分でも見たことで、人前で大きな声で話せるようになった。	① 順路を覚えること、方向転換をすることに関しては継続して取り組んでいく必要がある。 ② 自立活動と関連付けながら、話す練習に取り組むこと、話しやすい言葉の選定を行うことを継続して行っていく。
現在の様子	・正しい持ち方を他学級の教師に褒められることが増え、自分から進んで取り組むことができるようになった。清掃活動を通して他の活動に対しても自信をもつことができるようになった点が、児童の変化として感じられる。	

「同世代の友達や先輩との遊びを通した交流授業」(小学部A-③グループと小学部6年1・2組の交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
遊びの指導「はこだてランドへ行こう」		
2 対象児童		
小学部2年F組		
3 育てたい力		
① 友達と適切に関わりながら遊ぶ。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流時】		
・リモート画面に注目し、6年生の顔や名前を覚えたり、話を聞いたりする。		
・やりたい遊びを1つ選び、発表する。		
【直接交流時】		
・順番や約束を守りながら遊ぶ。		
・6年生に感謝の気持ちを伝える。		
5 授業の概要		
【リモート交流時】		
・リモート画面に注目し、6年生の顔や名前を覚えたり、話を聞いたりする。やりたい遊びを1つ選び、発表する。		
【直接交流時】		
・「はこだてランド」へ行って、6年生や他学級の友達と一緒に遊ぶ。		
6 手立ての工夫		
・直接交流への見通しや期待感をもつための、ICTを活用した動画提示		
・動画からの必要情報をイラストカードで視覚的に提示		
・画面への注目を促す言葉掛けや指さし		
・選択、発表につなげるワークシート		
・話し方の手本の提示		
・イラストや写真など、視覚教材の提示		
・良い例と悪い例を示しながら、事前に約束を確認する場面の設定		
・チケットを準備しての楽しい雰囲気づくり		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	・一人遊びが多く、自分から友達に関わっていくことはあまりない。 ・思い通りにならないと手をたたくことがある。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 言葉掛けを聞いて、画面に注目することができた。 ① 教材があったことで、やりたい遊びを1つ選ぶことができた。	
2回目の研究授業後	① 6年生と関わりながら遊ぶことができた。 ① 遊び終わったとき、言葉掛けを受けてお辞儀をすることができた。	① やりたい遊びが別の友達と重なったとき、友達の手を軽くたたくことがあった。
現在の様子	・友達が遊んでいるところに自分から行って同じ空間で遊んだり、発声や身振りで相手に伝えようとしたりすることが増えた。 ・思うようにならないときに、相手を軽くたたこうとすることがまだある。	

「現代の児童の特徴を生かした交流授業」(小学部Bグループ児童と中学部3年の交流授業)		
1 教科・単元(題材)名		
生活単元学習「染め物に挑戦しよう」		
2 対象児童		
小学部3年2組		
3 育てたい力		
① 相手を意識し、適切な伝え方を考えたり内容を考えたりする。 ② 染物作品の作り方を聞いたり実物を見たりして、その色や模様の面白さを感じ取り、染物作品をどのように工夫して作るかを考える。		
4 単元(題材)の目標		
【直接交流時】 ・中学部生徒の発表を聞いて、感じたことや考えたことを相手に伝える。 ・体験の際に、しぼり方を選んだりしぼる位置を調整したりしながらしぼる。(しぼり方を工夫する)		
【リモート交流時】 ・動画(あい♡Tube)を見たり中学部生徒の感想発表を聞いたりして、感じたことや考えたことを話す。		
5 授業の概要		
・種から藍を育てる。 ・染め物のやり方を中学部生徒に教わる。(直接交流) ・藍染めをし、それについて報告するための動画「あい♡Tube」を撮影する。 ・中学部生徒に「あい♡Tube」を見せながら報告する。(リモート交流)		
6 手立ての工夫		
・リモート交流によるちょうどいい距離感でのやりとり ・事前学習における同様の発表場面の設定 ・Youtubeの動画を作る等、児童の興味、関心を高め、主体性を引き出す手立て		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	・コミュニケーション面では、質問に対して自分の気持ちや意見を簡単に話すことができるようになってきた。また、言葉掛けや身体支援を受けて、適切な声量にしたり、姿勢、視線などを相手に向けながら話したりする。 ・言葉掛けしたり手を添えて支援したりすると、細かい作業でも自分なりに取り組むことができる。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 中学部生徒との関わりでは、生徒が出したクイズに発表(挙手)できた。 ② 意欲的にやり方を覚えようとしていた。「きれいな模様にしたい」という発言も見られた。	① 緊張もあり、答えにくい質問には回答できなかった。お手本の発表を見る、発表しやすい雰囲気づくり、集団での発表機会を今後も継続する。
2回目の研究授業後	① 自分から挙手をして、自分の言葉で感想を話すことができた。	① 簡単な感想となったため、より感想を深められるように、活動を振り返る教材があってもよかった。
現在の様子	・藍染めを習った中学部生徒の名前を覚え、廊下で会った際に名前を呼ぶことがある。引き続き意欲的に発表活動に取り組んでいる。 ・慣れない相手に対して進んで関わるのが難しい。自信をもって関わり合えるように、成功体験を多くの場面で積み重ねる。	

船沢小学校児童との交流及び共同学習（小学部Cグループ）		
1 教科・単元（題材）名		
生活単元学習「なかよし交流会をしよう」		
2 対象児童		
小学部4・5年K組		
3 育てたい力		
① 自分の役割が分かり、進んで活動に取り組む。		
② 友達と関わりながら、クイズを出題したり、ゲームに参加したりする。		
4 単元（題材）の目標		
【リモート交流時】		
・ゲームのルールを守ってなかよし交流会に参加する。		
・相手に分かりやすく話したり、友達と協力したりして、クイズを出題する。		
【直接交流時】		
・自己紹介カードを使って、自分の好きな物を相手に分かりやすく話す。		
・ペアの友達と関わりながら『魔女をやっつけろ』のゲームに参加する。		
5 授業の概要		
・事前学習：クイズやゲームなどを体験し、ゲームのルールが分かる。		
・リモート交流：カメラの前で、友達と一緒にクイズの出題をする。		
・直接交流：船沢小の児童とペアになり、リレーゲームに参加する。		
・事後学習：がんばったことや感想を発表し合う。		
6 手立ての工夫		
・簡単な言葉に置き換えた個別の言葉掛け		
・文字やイラスト、写真を用いたクイズの提示や自己紹介カードの提示		
・友達に支援を求めるようにする言葉掛け		
・達成感が得られるように称賛する		
・自己紹介、ゲーム、感想発表の事前練習の設定		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	・学級やグループの友達や教師には、自分から話し掛けたり、関わったりすることができる。 ・発音が不明瞭なこともあるが、朝の会の司会等、短い台詞を覚えて話すことができる。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	② 言葉がやや不明瞭であったが、大勢の人の前で話すことができた。	① クイズのルールの理解が難しかった。
2回目の研究授業後	① 自己紹介カードを見せながら、自分の名前や「好きな物は鬼です」と話すことができた。 ② ペアの友達と関わりながら『魔女をやっつけろ』のゲームに協力して参加することができた。 ③ 感想発表では、「ゲームが楽しかったです」とみんなに聞こえる声で話すことができた。	① 緊張した様子で、船沢小学校の友達が話しかけてくれたことに、うまく返答できないことがあった。
現在の様子	・お礼の手紙に、「楽しかったありがとう」と書き、笑顔で交流を振り返っていた。 ・友達が困っているときに自分から関わり、言葉を掛けることが多くなった。 ・進んで約束カードを持つ等、役割を覚えて行動できるようになってきた。	

清掃学習を通じた高等部生徒との交流授業（小学部Dグループと高等部流通サービス班の交流授業）		
1 教科・単元（題材）名		
生活単元学習「お掃除名人になろう」		
2 対象児童		
小学部4年1組		
3 育てたい力		
① 先輩の手本を見て、床用ワイパー（ダスタークロス）の使い方が分かり、一人で清掃する。 ② 先輩に進んで挨拶したり、依頼や報告をしたりする。		
4 単元（題材）の目標		
【リモート交流時】		
・手本を見て手順を理解し、正しい床用ワイパーの持ち方で清掃をする。		
・相手に聞こえる声の大きさで、感想や質問を話す		
【間接交流時】		
・ダスタークロスの正しい持ち方や動き方が分かる。		
・分からなかったことや聞きたいことを簡単な言葉にして話す。		
（上記を目標に取り組んだお掃除検定の様子を動画撮影し、高等部生徒に視聴してもらった）		
5 授業の概要		
・リモート交流：先輩の手本を見て、テーブル拭きや床用ワイパーの掛け方を練習、評価をもらう。挨拶、感想、質問をし、気持ちを伝える。		
・直接交流：中止となったため、Dグループ内の異学年交流としてお掃除検定を実施。友達同士、実践・評価し合う。感想・質問発表。		
・間接交流：お掃除検定・感想・質問動画を高等部先輩に視聴してもらう。先輩からのアドバイス・メッセージ動画で学びを深める。		
6 手立ての工夫		
・ICTを活用した「メンバー紹介」や「手本動画でリサイクル活動を知る」活動の設定		
・穴埋め式の発表用紙の提示		
・イラストカードを用いて、先輩から3段階評価をしてもらう場面の設定		
7 児童の変容		
研究授業前の実態	- 指示を聞いたり、作業手順を見たりすることで、見通しをもって作業できる。初めての活動では、失敗しないかという不安な気持ちが強いが、自信をもたせる言葉掛けや称賛により、意欲的に取り組む。 - 発表場面では、話す台詞や手本を見ることで、自信をもって大きな声で話す。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 手本動画を見て、壁にぶつけないことや、動線に気を付けながら、床用ワイパーを掛けることができた。 ② 定型文があったことで、感想と質問を話すことができた。	① 床用ワイパーの握り方は難しそうであり、教師の手本を見て持ち方を直していた。 ② 相手に聞こえる声量、話の聞き方（うなずき、立って話を聞く際の姿勢）が難しかった。
2回目の研究授業後	① 事前練習に取り組んだり、教師の説明や写真カードを手掛かりにしたりし、正しい持ち方・動きでダスタークロス掛けができた。 ② 支援がなくても、自分で質問を考え、相手に聞こえる声量で話すことができた。	
現在の様子	教室清掃時床用ワイパーをかけている友達を見て「壁にぶつけないようにね。」と言葉を掛けていた。	

(2) 中学部 作業学習における地域とのよりよい交流授業

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(中学部畑・木工班と中南農業普及振興室)

1 教科・単元(題材)名

作業学習「育てた野菜で、販売学習に取り組もう」

2 対象生徒

中学部2年1組

3 育てたい力

- ① 場面に応じて、声量やタイミングに気を付けて対応する。
- ② 販売学習に向けて、丁寧に野菜作りやラッピングをする。

4 単元(題材)の目標

【直接交流時・リモート交流時共通】

- ・畑作業に適した服装が分かる。
- ・各作業工程に応じた必要な道具が分かり、適切に扱う。
- ・思いやりをもち、消費者を考えて野菜を取り扱い、販売をする。
- ・一定の時間、集中して作業に取り組む。
- ・報告したり質問したりして作業を行う。

5 授業の概要

- ・事前学習：野菜の生育状況を見ながら、今後の管理について見通しをもつ。分からない管理について講師から話を聞く。
- ・直接授業：講師の先生から、直接管理方法を教示してもらおう。管理の作業を講師と一緒にやり、作業方法を知る。
- ・リモート授業：収穫できたお礼と収穫量の報告をして、販売学習での価格設定について相談する。
- ・事後学習：講師に教えてもらった作業方法で畑を管理する。

6 手立ての工夫

- ・質疑応答できるような進行をする。
- ・注視が難しい生徒には個別の言葉掛けしたり、視写やなぞりが必要な生徒には個別で対応したりする。
- ・必要な道具や担当生徒の表示は、ホワイトボード上で示す。

7 生徒の変容

研究授業前の 実態	・おおむね全体指示で行動し、きまりやルール、順番を守ろうとする。 ・分からないことや見通しがもてないときに活動が停滞する。	
	成果	課題
1回目の 研究授業後	① 事前に考えた質問を、大きな声で話すことができた。 ② 講師に聞いた管理方法を理解して、マルチはがしや土寄せに取り組むことができた。	① 作業途中の報告や質問の場面が少ない。 ② 講師に教えてもらった作業方法を毎時間、活動前におさらいし、適切なやり方で作業を続けられるようにする。
2回目の 研究授業後	① 価格設定をする場面で積極的に発言する様子が見られた。販売練習でも大きな声で取り組む様子が見られた。 ② 野菜の価格を覚え、慎重に収穫をしたり、丁寧にラッピングしたりできた。	① 販売学習ではお客さんへ対応するときに消極的であった。 ② 講師に教えてもらった作業方法を毎時間、活動前におさらいし、適切なやり方で作業を続けられるようにする。
現在の様子	・決まった台詞は進んで伝える様子が見られる。 ・講師から聞いた管理方法をよく覚えており、販売学習に向けての活動や販売練習に進んで取り組んでいる。 ・指摘に対して素直に応じることが難しいことがあるため、指示を受けて、いつも適切な作業方法で取り組めるようになるとよい。	

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(中学部エコクラフト班と早川さん)		
1 教科・単元(題材) 名		
作業学習「プロの技に触れよう」		
2 対象生徒		
中学部3年2組		
3 育てたい力		
① 新製品作りを通して、これまでの作業技術の向上を図る。		
② 状況に応じて挨拶、返事、報告、質問、依頼等の必要なコミュニケーションの仕方を身に付ける。		
4 単元(題材) の目標		
【直接交流時・リモート交流時共通】		
・製作する製品やその作業工程、清掃等の活動の流れを知る。		
・紙バンドを平織りで編む。		
・配色や順番を考えて編む。		
5 授業の概要		
・事前学習：製品見本を提示し、製品作りや交流に見通しをもつ。		
・直接交流：講師の先生から、直接製品作りについて教わり、評価をもらう。		
・リモート交流：販売学習での製品の売り上げ等を報告し、講評をもらう。		
・事後学習：製品作りの継続		
6 手立ての工夫		
・講師の方に名前を呼んでもらう等、関わりがスムーズにできるよう生徒に名札を付ける。		
・生徒が初めての活動でも理解して取り組めるように見本を提示し、グループで事前に必要な材料を準備する。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・教えられた技能を守ろうとして、丁寧に製品を作ることができる。 ・自分で理解していることは多いが、やや指示を待つことがあり、状況に応じた臨機応変な対応を苦手とする。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 紙バンドの切れ端を使ってボンド付けをすると、適量かつ満遍なく塗れることを知ることができた。 ② 説明を聞いてから作業に取り組み、分からないこと(ボンドの量や洗濯ばさみを留める位置など)を聞くことができた。	① 指導直後はボンドの量の調整が上手くいかず、はみ出る場面が多かった。 ② 一人で作業する際に、ボンド付けの作業に自信がないまま、教師に確認をせず進めることがあった。
2回目の研究授業後	① 紙バンドの切れ端を使って、ボンドの適量を付けられ、製品をきれいに仕上げるできるようになった。 ② 講師に見やすいように、立ち位置や声の大きさを工夫する様子が見られ、製作した数や売り上げの金額を伝えることができた。	② 講師とのやり取りはできたように見えたが、交流相手が1回目と同一人物だったため、人物が変わった場合にもできるかどうか課題である。
現在の様子	・ボンド付けを率先して行うようになり、他の製品への応用もできるようになった。 ・対人関係面では、自分から周囲へ関わりをもって作業に取り組むようになった。これからは様々な学習場面で、自信がないときは、自分から聞いたり、確認したりすることができるようになればよい。	

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(中学部紙すき班と小野さん)		
1 教科・単元(題材)名		
作業学習「紙製品作り」		
2 対象生徒		
中学部3年2組		
3 育てたい力		
① 製品作りのアドバイスを受けて、よりよい製品を作ろうとする態度。		
② 自分で活動内容を確認し、準備や片付けを効率よく行う力。		
4 単元(題材)の目標		
【ビデオ交流時・直接交流時共通】		
・作業に必要な材料や道具の準備をする。 ・作業工程に応じた道具の使い方を覚える。 ・正しい手順で作業する。 ・決まった場所に材料や道具を片付ける。 ・挨拶、返事、報告、質問をする。 ・約50分間作業を継続する。 ・活動に自分から取り組む。 ・友達と協力して作業や清掃を行う。		
5 授業の概要		
・事前学習：うちわの型取りと裁断に取り組む。 ・ビデオ交流：講師が制作した動画を見ながら、桜のぼんぼりを作る。 ・直接交流：講師から直接手順や注意点を教えてもらいながら、紅葉のランプシェードを作る ・事後学習：手順や注意点に気を付けて、カッターでメッセージタグを切る。		
6 手立ての工夫		
・桜の花の切り抜きの工程で、桜の花の周りに五角形の補助線を付けた平面図を用意する。 ・何度も確認できるように、手順表や注意点を掲示する。 ・製作の流れ、注意点等を理解できるように、ビデオ交流では楽しい演出や明快なテロップ等を取り入れる。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・目と手の協応に弱さが見られるが、はさみで直線や曲線を線の通りに切ることができる。 ・工作などものづくりを好み、丁寧に取り組む。 ・手順表や準備物を文字で提示することで、自分で作業を進めることができる。分からないことがあっても、自分から援助依頼や質問をすることが少なく、自分の判断で勝手に作業を進めることがある。整理整頓が苦手で、不注意から物をなくすことがある。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 製作手順の動画によく注目し、他の友達の発表や教師のヒントを聞いて、注意点を考えようとする様子が見られた。また、注意点に気を付けて切っていた。 ② 道具置き場を分かりやすく示すことで、道具や材料を取りに行ったり、指示どおり片付けたりすることができた。	① 注意点に自分で気付くことは難しかった。また、自分から確認しようとすることはなかった。 ② 切り抜いた花びらを1枚紛失するなど、不注意な面が見られた。
2回目の研究授業後	① はさみとカッターを併用して、飾りが切りやすい手順で制作できた。カッターを動かす方向や持ち方が改善し、切り口がきれいになった。教えてもらった注意点を理解し、自分の言葉で発表できた。 ② グレーの皿にゴミ、白の皿に成果物を分けて整理できた。また、自分で使いやすいと感じたカッターを選んでいった。	① 1回目及び2回目の研究授業ともに、外部講師の指導・アドバイスを聞き入れ、活動することができた。環境や人が変わると指示等は受け入れやすい性格である。いつも接している教師の指導等については、素直に受け入れることが難しい面がある。 ② 自分で考えて準備することは難しい。
現在の様子	・効率的な作業手順の理解やカッターの使い方の改善により、製品作りの技術が向上した。 ・様々な作業種を行い、学んだ知識やスキル等を生かしていくことが必要である。また、ある程度道具を準備したことで、生徒自身が机上を整理して作業を進めることができたが、不足があったときに自分から教師に支援を求めることが、まだ十分とは言えない。	

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(中学部リサイクル班と弘前市社会福祉協議会、リサイクル業者)		
1 教科・単元(題材)名		
作業学習「リサイクルについて学ぼう」		
2 対象生徒		
中学部1年B組		
3 育てたい力		
① 外部講師の話を聞き、自分たちのリサイクル作業が社会の中でどのように役立っているのかについて興味や関心をもつ。		
② リサイクル作業で気を付けるポイントを知る。		
4 単元(題材)の目標		
【リモート交流時】		
・外部講師(弘前市社会福祉協議会)の話を聞き、自分たちのリサイクル作業が社会の中でどのように役立っているのかを知る。		
【直接交流時】		
・外部講師(リサイクル業者)の話を聞き、自分たちのリサイクル作業が社会の中でどのように役立っているのかを知る。		
5 授業の概要		
- 事前学習: リサイクルに関する実態把握 - リモート授業: 弘前市社会福祉協議会からリサイクルの意義等の話を聞く。 - 直接授業: リサイクル業者からアルミ缶・ペットボトルのリサイクル作業をする上でのポイントを聞き、実際に体験する。 - 事後学習: リサイクル作業の継続		
6 手立ての工夫		
- 講師が自己紹介をするときに、生徒が講師の名前が分かるように大きな名札を提示してもらう。 - 生徒が聞いて分かる言葉、見て分かるイラストや写真を交えて講師に説明してもらう。また、実際の現場で行われている決まりや約束事について説明してもらう。 - 生徒が分かりやすいように、近くで見分ける方法や圧縮機の使い方を実演してもらう。また、生徒に直接支援やアドバイスをしてもらう。 - 生徒が説明を聞いたり、理解しているかを確認したりするために、時折発問を加える。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	- 学校周辺のゴミ拾いでは、燃えるゴミを探して集めることができる。リサイクル班に所属しているが、リサイクルの意義等について十分な理解には至っていない。 - 作業内容は理解しているが、周りの動きを気にして集中ができないことがある。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① プルタブやキャップはゴミではなくリサイクルであり、たくさん集めることで車椅子やワクチンをプレゼントできることを知った。	① プルタブやキャップはリサイクル資源であることは分かったが、どれくらいの量を集めると車いすやワクチンになるのかの理解は難しかった。
2回目の研究授業後	② 講師の前でアルミ缶をつぶす様子を見せ、評価してもらうことができた。 ② 講師の説明を聞き、教わった方法でペットボトルをつぶすことができた。	② 交流の時間内でつぶし器の使い方は分かったが、しっかりとつぶすための回数やつぶれ具合を習得することはできなかった。
現在の様子	- 弘前市社会福祉協議会にプルタブとキャップを届け、感謝状をもらうことができた。これからも「社会の役に立っている」という実感を味わう経験を積み重ねていく必要がある。 - 作業にペットボトルつぶしを追加し、教わった方法で取り組んでいるが、ペットボトルの種類によってはつぶすことが難しいものもあり、自分で選別や援助依頼する必要がある。	

(3) 高等部 作業学習における地域とのよりよい交流授業

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(高等部リサイクル班と弥生いこいの広場)

1 教科・単元(題材)名

作業学習「おやつカプセル」

2 対象生徒

高等部リサイクル班

3 育てたい力

① 他者と関わる力

4 単元(題材)の目標

【直接授業】

- ・地域に還元する活動に取り組む。

【リモート授業】

- ・自分たちが作ったおやつカプセルがどのように利用されて、どのように動物のおやつになっているのか、映像を見ながらスタッフさんの説明を聞き、おやつカプセルの役割を知る。

5 授業の概要

- ・弥生いこいの広場の動物広場のスタッフさんからおやつカプセルの作り方を教えてもらう。
- ・自分たちが作ったおやつカプセルが、どのように利用されているのか、映像を見て確認する。

6 手立ての工夫

- ・おやつカプセルが動く様子のイメージにつなげるため、おやつカプセル動画に効果音を取り入れた。
- ・動物が食べる様子の映像を提示した。

7 生徒の変容

研究授業前の
実態

- ・簡単な指示を理解し、行動することができる。
- ・困ったことがあると停滞することもあるが、教師の側に来て伝えることができる。
- ・周囲の様子に気持ちが向き、集中して活動することが難しいときもあるが、好きな活動では30分以上集中して取り組む。

成果

課題

1回目の
研究授業後

① 事前学習の様子を見て、得意な工程を担当した。教師が間に入ってやりとりを促した。

① 活動の後半は集中力を欠いた。自分から関わることは難しかった。

2回目の
研究授業後

① 外部講師の話を聞いていた。専用ケースに入れることができた。周囲の様子をよく見るように促したことで、活動内容の理解につながった。

① 外部講師の話からケースにカプセルを入れるまで、タイムラグがあった。マイクを差し出すタイミングが遅れ、マイクで声を拾えなかった。

現在の様子

- ・カプセルに飼料を入れる工程を覚え、進んで活動に取り組んでいる。

「作業学習における外部講師との授業を通した地域交流」（高等部農工班と弥生いこいの広場）		
1 教科・単元（題材）名		
作業学習『みんなのごはん』プロジェクト		
2 対象生徒		
高等部農工班		
3 育てたい力		
① 交流を通して地域貢献や地域とのつながりを深める。		
4 単元（題材）の目標		
【直接交流時】		
・自分たちの栽培した作物で規格外のものを「どうぶつのごはん」として有効利用できることを知る。 ・弥生いこいの広場での清掃活動等の奉仕活動を行い、地域貢献や地域とのつながりを深める。		
【リモート交流時】		
・作物の有効活用についての理解をする。 ・弥生いこいの広場の裏側を知る。		
5 授業の概要		
・作業学習で収穫した作物を、弥生いこいの広場で直接手渡し、園内の清掃も行う。 ・映像を通して、前回お渡しした作物の行方を知る。また、交流先の弥生いこいの広場の裏側（檻の中や職員の仕事）を知る。		
6 手立ての工夫		
・直接交流の事前学習ではスライドやパンフレットを活用した。施設職員に手紙を書いて発表する活動を設定する。 ・リモート交流の事前学習では、質問を考え、発表するためにワークシートを活用する。 ・リモート交流後に感想を聞き、即時に振り返りをする活動を設定する。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・積極的に行動へ移すことが少ない。初めての学習では戸惑うことが多いが、内容を理解すると一人で活動することができる。 ・外部の人がいる場面での活動に苦手意識がある。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 直接交流に出向いたことで、作業学習で取り組んでいることの内容が理解できた。	① 事前学習だけでは、なぜこのような活動をしているのか戸惑っている様子があった。
2回目の研究授業後	① 作物の行方や、交流先の裏側を知ること、作業学習と交流学習の点と点がつながったようだった。	① リモートで裏側を知ることができたが、臨場感に欠けていたため意欲的な面で課題があった。
現在の様子	・自分たちで作った作物が動物のごはんになることがわかった。 ・地域とのつながりを知ることができた。	

「作業学習における外部講師との授業を通した地域交流」(高等部工芸班とふれあい交流センター紙すきの里)		
1 教科・単元(題材) 名		
作業学習「紙すきをしよう」		
2 対象生徒		
高等部工芸班		
3 育てたい力		
① 判断力(マニュアル以外のことが起こったらどうするか)		
② 技術(製品作りのため)		
4 単元(題材) の目標		
【学校での直接交流時】		
・現在行っている紙すきとの違いに気付く。		
・もっと良い紙になるためにどのような紙すきの仕方をすればよいか意見を出す。		
【校外での直接交流時】		
・本格的な紙すきの仕方を覚え、現在行っている紙すきに生かす。		
・もっと良い紙になるためにどのような紙すきの仕方をすればよいか意見を出す。		
5 授業の概要		
・事前学習として学校で交流し、紙すきの歴史を知り、紙すきの仕方を学ぶ。		
・直接交流として紙すきの工程を一人で行い、講師から助言を受ける。		
・事後学習として普段行っている牛乳パックの紙と本格的な紙すきの紙を比べて、もっと良い紙にするようにこれからの作業学習に活かす。		
6 手立ての工夫		
・相互にやり取りをし、関わり合い、交流に興味をもって参加できる工夫として言葉掛けで促す。		
・学習を理解しやすくするための情報提示の工夫として、身体的支援、視覚的支援をする。		
・自分の思いを表現できるための発表や表現の工夫として、すいた紙を見せ合うようにする。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・自分の役割は最後まで行うことができる。 ・初めての学習では戸惑うことが多いが、内容を理解すると一人で活動することができる。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 事前にどのように行うか説明をして、わからないことを聞ける環境を作ると、安心して取り組むことができた。	① 今回は皆と同じように行うことで戸惑うことなく行うことができた。今後、一人で判断し、できるようになってほしい。
2回目の研究授業後	② 各作業工程では、繰り返しの活動を行うことで、一人で取り組むことができるようになった。	① 教師や友達から言葉掛けをされなくても進んでできるようになってほしい。
現在の様子	・分からないことがあったときに自分で判断して、解決しようとするようになってきている。 ・身に付けた技術を生かして、作業を行うようになってきた。	

「作業学習における外部講師との授業を通した地域交流」(高等部手芸・縫製班とかちやらずの会)		
1 教科・単元(題材) 名		
作業学習「こぎん刺し」		
2 対象生徒		
高等部手芸・縫製班		
3 育てたい力		
① さらに興味関心を深める力。		
② 連続模様に取り組む力。		
4 単元(題材) の目標		
【リモート交流時】		
・大高さんの刺した作品を見て、創作意欲を高める。		
【直接交流時】		
・大高さんとの話から、自分で気を付けなければいけないところ分かる。		
5 授業の概要		
・かちやらずの会の大高さんの自宅にあるこぎん刺しの作品を紹介してもらう。		
・自分が刺したこぎん刺しを見てもらい、アドバイスを受ける。		
6 手立ての工夫		
・聞いてみたいことを大高さんに聞く活動を設定する。		
7 生徒の変容		
研究授業前の 実態	・図案を見ながら、一人で刺することができる。 ・分からないときは教師に確認をする場面がある。	
	成果	課題
1回目の 研究授業後	① いろいろな作品を見て、創作意欲が出てきた。	① 刺す模様を選ぶことに自主性がない。
2回目の 研究授業後	② 図面を見て刺すだけでなく、「きれいに刺している」と褒められ、自信をもてた。	① 連続模様にはまり、製品作りに乗り気でない。
現在の様子	・友達に教えている。 ・連続模様に取り組んでいる。	

「作業学習における外部講師との授業を通じた地域交流」(高等部流通・サービス班とヴィラ弘前)		
1 教科・単元(題材)名		
作業学習「福祉サービス」		
2 対象生徒		
高等部流通・サービス班		
3 育てたい力		
① 自分の力(できること)を生かして、前向きに取り組むことで、新たなことに意欲的に挑戦し、できるようになりたいという気持ちを持ち、取り組む力。		
4 単元(題材)の目標		
【直接交流時】 ・高齢者や障害者の不自由さを知り、自分たちにできることを考え行動する気持ちを育てる。 ・福祉施設の仕事をを知る。		
5 授業の概要		
・事前学習では、高齢者及び障害者について学習し、リネン交換や福祉機器について理解を深める。 ・直接交流では、ヴィラ弘前の方を講師に招き、福祉機器の体験やリネン交換について教えていただく。 ・事後学習では、教えていただいたことを繰り返し練習する。		
6 手立ての工夫		
・実技を通して関わる場面を設定する。 ・ワークシートに体験した感想を体験毎に記入する活動を設定する。 ・分かりやすい資料の提示及び説明。 ・体験した感想を発表する活動を設定する。		
7 生徒の変容		
研究授業前の実態	・分からないことがあると、積極的に教師に質問をする。 ・理解が難しいことに対して、「分からない」ことを伝えるまでに時間を要し、表情がくもることがある。 ・体を動かすことは好きであるが、手指を使う細かい作業が苦手である。	
	成果	課題
1回目の研究授業後	① 苦手な作業には意欲的になれなかったが、外部講師に丁寧に教えてもらい、励ましの言葉をかけていただくことで、前向きに頑張ろうという気持ちをもつようになった。	① 作業に雑さが残る。苦手な作業に対し、マイナスな表現をすることがあったが、自分で前向きに取り組もうとする様子も見られている。
2回目の研究授業後	コロナのため実施できず。	
現在の様子	・2回目の実施をとっても楽しみにしていたが、実施できずとても残念がっていた。 ・いつか成果を伝えたいという目標を持ち、活動に取り組んでいる。 ・苦手なリネン交換の練習に自分から取り組む様子が見られている。	

3 参考資料

(1) 研究各種シート

(2) 補足資料

弘一養 リモート交流 ・ 直接交流
打ち合わせシート

令和4年 月 日

1 授業の基本情報

日時	第1希望日：令和4年〇月〇〇日（〇）〇〇：〇〇～〇〇：〇〇 第2希望日：令和4年〇月〇〇日（〇）〇〇：〇〇～〇〇：〇〇	
	実施予定日：令和4年 月 日（ ）： ～：	
対象の学習 グループ、 学級、児童 生徒等	本校	交流相手
場所		
授業 教科等、単元		
目標 関わる教科		
担当者		

2 授業の流れの確認

時刻	本校	時刻	交流相手
【留意点、気づいたこと等】			

3 視聴覚機材の準備物

(リモート交流の場合、または直接交流で ICT を活用する場合は記入)

	学校	交流相手
パソコン		
タブレット		
w e bカメラ		
ビデオカメラ		
スピーカー		
テレビ		
プロジェクター		
スクリーン		
マイク		
その他		

4 視聴覚機材の準備・設置等に関わる補助の有無

(リモート交流の場合、または直接交流で ICT を活用する場合は記入)

学校	交流相手
研修部	学校職員
教務部	
その他	

※依頼が必要な時は、各自で依頼する。

5 テスト通信の日時 (リモート交流の場合は記入)

テスト通信可能な日程 (複数) ①〇〇月〇〇日〇〇 : 〇〇~〇〇 : 〇〇 ②〇〇月〇〇日〇〇 : 〇〇~〇〇 : 〇〇 ③〇〇月〇〇日〇〇 : 〇〇~〇〇 : 〇〇

例：小学部様式

児童生徒変容シート①～小学部～
同年代の友達や先輩と共に学び合う交流授業

1 実態（※学習指導案「実態」から抜粋。学習に入る前の実態を記入。）

- ①
- ②

2 児童の育てたい力

- ①
- ②

3 研究授業Ⅰ回目

（Ⅰ）事前学習の様子

- ①
- ②

（Ⅱ）研究授業

評価 （※指導案「9 授業の評価」から抜粋）	児童の様子
①	
②	
【成果、改善策】 ① ②	

（Ⅲ）事後学習、その後の様子

- ①
- ②

例：小学部様式

児童生徒変容シート②～小学部～
同年代の友達や先輩と共に学び合う交流授業

1 実態（※学習指導案「実態」から抜粋。1回目の交流後の実態を記入。）

- ①
- ②

2 児童の育てたい力

- ①
- ②

3 研究授業2回目

（1）事前学習の様子

- ①
- ②

（2）研究授業

評価（※指導案から抜粋）	児童の様子
①	
②	
【成果、改善策】	
①	
②	

（3）事後学習、その後の様子

- ①
- ②

日時 令和 年 月 日 () : ~ :
場所
対象
指導者

1 単元名
「 」

2 年間指導計画の目標 (※年計の全体目標より抜粋)
・
・
・
・

3 単元の目標 (※年計の単元目標より抜粋)
・
・
・

役割を果たす人段階表を見て、
目ざす児童生徒像をチェックする

4 対象児童生徒の実態と目指す姿 (※「役割を果たす人段階表」)

対象児童生徒	実態	役割を果たす人段階表より		
	・	A	誇りをもてる人	
		B	戦力になる人	
		C	手本になる人	
		D	組織の一員となる人	
		E	人と関係を築く人	
		F	存在する人	
		G	生活の基本が身についた人	

5 本時の学習 (※本時の学習内容について簡潔に記載)

6 本時の目標 (※対象児童生徒の育てたい力をもとに目標を設定、記載。「特別支援学校 学部学習指導要領目標・内容表」)

目標	関連する各教科等と内容		
(1)			
(2)			

交流振り返りシート・Ⅲの項目。

7 活動の工夫 (※交流振り返りシートより)

	項目
①	児童生徒が交流相手とやり取りをし、関わりあいながら取り組めるよう工夫している。(自己紹介、質問コーナー、活動の説明、感想発表等)
②	児童生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。
③	児童生徒が学習活動を理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。
④	児童生徒が興味をもって交流に参加できるよう工夫している。
⑤	児童生徒が交流で自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。

8 展開

時刻	学習内容	学習活動 (○) 児童生徒の動き (・)	具体的な活動の工夫 (手立て) (・) ※必要に応じて教師の動きを記入 ※手立てや教師の動きを記入する際の記号は、各グループが書きし やすい記号を使ってもよい。(●、◎など)	活動の工夫 の項目番号
		・		

--	--	--	--	--

9 授業の評価

評価	
(1)	
(2)	

10 教室配置

11 交流の相手（※交流相手が児童生徒の場合は記載）

学部	学習グループ等	指導者	本時の学習	本時の目標	場所

R 4 __交流振り返りシート

		学部		令和4年		月		日			
実施しなかつた		実施したがうまくいかなかった		あまりうまくいかなかった		どちらともいえない		まあまあうまくいった		実施していて十分うまくいった	
0		1		2		3		4		5	

交流授業：（教科等：）

交 流 日：

Ⅰ 事前準備		実施状況						実施して気がついたこと、感想、成果、課題、改善点等	
①	交流する相手先や担任または学習グループの担当で、事前に打ち合わせを行い、学習内容や必要な情報等を共有している。	0	1	2	3	4	5		
②	交流における児童生徒の興味関心や願いを知り、反映させる工夫をしている。	0	1	2	3	4	5		
③	交流する相手について、児童生徒の理解が深まるよう工夫している。（所属や経歴等の相手についての情報を事前に伝える）	0	1	2	3	4	5		
④	児童生徒が、交流の方法（手段）を分かるように工夫している。（直接かリモートか、話し方や関わり方、学習内容等）	0	1	2	3	4	5		
Ⅱ 目標設定の工夫と学習活動の変更調整									
①	児童生徒の実態に応じて、交流を通して育てたい力を明らかにして目標を設定し、目標に向かって取り組んでいる。	0	1	2	3	4	5		
②	交流に取り組みやすいよう、活動の設定を工夫している。（場所や時刻、学習内容の調整等）	0	1	2	3	4	5		
Ⅲ 子どもの積極的参加のための活動の工夫									
①	児童生徒が交流相手とやり取りをし、関わりあいながら取り組めるよう工夫している。（自己紹介、質問コーナー、活動の説明、感想発表等）	0	1	2	3	4	5		
②	児童生徒の実態に適した補助的教材や教具等を工夫している。	0	1	2	3	4	5		
③	児童生徒が学習活動を理解しやすいように、情報を様々な方法で提示している。	0	1	2	3	4	5		
④	児童生徒が興味をもって交流に参加できるよう工夫している。	0	1	2	3	4	5		
⑤	児童生徒が交流で自分の思いを表現できるよう、発表や表現の仕方を工夫している。	0	1	2	3	4	5		
Ⅳ スタッフの役割と子供のサポート									
①	学級担任や学習グループ担当者等、交流当日の役割を確認し、目標の達成に向けて取り組んでいる。	0	1	2	3	4	5		
②	児童生徒が多様性を尊重する心を育むことができるよう、関わり方で戸惑う児童生徒に担任が手本を示している。	0	1	2	3	4	5		
Ⅴ 事後学習と評価									
①	交流の後に、児童生徒がよかったこと、楽しかったこと、発見したことや感想等について振り返りができるよう工夫している。	0	1	2	3	4	5		
②	交流についての学級担任や学習グループ担当者、児童生徒の振り返りを、次回の計画に活かしている。	0	1	2	3	4	5		
③	交流をより充実させるために、間接的な交流に取り組んでいる。（次回の交流計画、手紙や学級だよりを届ける、等）	0	1	2	3	4	5		

